

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：商業費 目：商業振興費
担当課	ひろしまブランド推進課
事業名	ひろしまブランド推進事業（一部国庫） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	68 「ひろしま」ブランドの価値向上を推進します。
	① 「ひろしま」ブランドの価値向上

目的

「ひろしま」ブランドの国内外での認知・評価を高め、魅力ある地域として選ばれることを目指す。その取組を通じて、持続的な地域経済の活性化や、県民の愛着・誇りの向上につなげていく。また、首都圏はもとより全国に向けひろしまの魅力を発信する拠点として、ひろしまブランドショップT A Uの運営を行う。

事業説明

対象者

県民及び県外者，市町，事業者，ひろしまファン等

事業内容

1 ブランド価値の向上

(単位：千円)

区 分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
情報発信	○ 「ひろしま」ブランドの認知・浸透を図るための情報発信 ・県民投稿型サイト「日刊わしら」の運営 ・関係部局と連携したブランドコンセプトの情報発信	28,221	28,221	27,637
食の魅力	○ ひろしまの「食の魅力」を向上させるイベント等の実施 ・県内外の食関係者による食体験イベントの実施【一部新規】 ・料理人コンクールの実施と若手料理人育成の取組【一部新規】	(債務 14,400) 36,716	(債務 14,400) 32,856	32,850
小 計		(債務 14,400) 64,937	(債務 14,400) 61,077	60,487

2 ひろしまブランドショップT A Uの運営

区 分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
施設管理運営費	○ 施設管理・運営 ・賃料，共益費，光熱水費，通信費等	200,003	199,625	199,092
ブランド価値向上・情報発信	○ 3Fイベントスペース等を活用したひろしまの魅力発信 ・ひろしまファンの増加イベント，県産品・地域資源PRイベントの実施 ・店舗の認知性向上のプロモーションとウェブ等を活用した情報発信	24,139	23,907	22,589

販路開拓支援	○ 県産品販路開拓支援 ・テストマーケティング等による商品力強化 ・販路開拓に向けた商談会、プレゼン指導 等	9,161	9,161	7,942
小 計		233,303	232,693	229,623
合 計		(債務 14,400) 298,240	(債務 14,400) 293,770	290,110

成果目標

○ 中長期の目標

都道府県魅力度ランキング（（株）ブランド総合研究所）：全国8位以内（令和2年度）

売上高：前年度実績を上回る額

○ 平成30年度の目標

ブランド価値の向上	県民のひろしまに対する愛着度・自慢度	地域ブランド調査 ・愛着度：平成29年度並を維持（平成29年度6位） ・自慢度：10位以内（平成29年度12位）
T A Uの運営	売上高：平成29年度の実績を上回る額 県産品等の報道件数：1,000件以上 新規取引：100件以上	

平成30年度実績

○ 都道府県魅力度ランキング（（株）ブランド総合研究所） 17位

指標名		基準値 (平成29年度)	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
ブランド価値の向上	県民のひろしまに対する愛着度	6位	基準値並	5位
	県民のひろしまに対する自慢度	12位	10位以内	8位
T A Uの運営	売上高	9.69億円	平成29年度実績を上回る額	10.6億円
	県産品等の報道件数	—	1,000件以上	1,872件
	新規取引件数	109件	100件以上	113件

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

○ 各都道府県ともブランド発信に注力している中、「都道府県魅力度ランキング」において、魅力度の点数が、平成21年度から平成30年度までの10年間で、12.9点から20.2点と、7.3点上昇しており、石川県に次ぐ全国2位の伸びとなっているが、目標の10位以内には届いていない。

○ 「ひろしま」ブランドの価値向上に向けて、「日刊わしら」の年間ユニークユーザー（UU）数と年間ページビュー（PV）数は好調であったが、利用登録者数については、十分な増加には至っていない。

- TAUでは、イベントスペースや飲食・物販機能を活用した様々な情報発信が首都圏メディアで取り上げられたり、SNSを通じて広がったことで店舗の認知が向上したこと、平成29年4月に店舗機能の更なる強化に向けた全館リニューアルを行ったことなどが売上増の要因となった。引き続き情報発信を強化し、「ひろしま」ブランドの認知向上を目指す。

令和元年度の取組方向

- ひろしまブランドコンセプトに基づく効果的な情報発信など、戦略的な情報発信を行うとともに、各コンセプトに基づく資産価値向上に取り組み、「都道府県魅力度ランキング」の上昇につなげる。
- 「日刊わしら」利用登録者数については、県内企業や、ひろしまとゆかりのある企業とのタイアップ企画などコンテンツの拡充や、サイトの機能強化などにより十分な増加を図っていく。
- TAUに備える飲食や物販、情報発信機能を最大限に活用し、本物のひろしまの魅力を、首都圏を中心とした消費者に向け発信していくための取組を展開する。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：企画費 目：企画総務費
担当課	スポーツ推進課
事業名	メキシコ選手団事前合宿受入等推進事業（単県） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ④ 東京オリンピック・パラリンピックを活用した本県の魅力向上・発信

目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、本県と経済的、文化的につながりの深いメキシコ選手団の事前合宿を県内各地で受け入れるとともに、各合宿地において、合宿を契機とした、スポーツをはじめ、経済、文化等、幅広い分野での交流を行い、県域全体の活性化につなげる。

事業説明

対象者

県民、市町、経済界、JOC、国、メキシコ関係者（メキシコオリンピック委員会及び競技団体等）

事業内容

（単位：千円）

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
事前合宿の誘致調整	○メキシコ競技団体による視察の受入 ○受入サポート員の配置	16,392	10,886	8,465
事前合宿受入支援 【新規】	○各市町の合宿受入への支援 ○通訳ボランティアの確保	45,645	21,313	20,870
県内の機運醸成	○機運醸成の仕組の構築 ・県内巡回イベントの実施 ・ホームページの作成・保守	7,390	6,340	5,514
合計		69,427	38,539	34,849

成果目標

- 国際大会・国際大会事前合宿誘致数 のべ5件以上（令和2年度まで）

平成30年度実績

指標名	目標値 （平成30年度）	実績値 （平成30年度）
国際大会・国際大会事前合宿誘致数※	のべ5件	のべ8件

※「国際スポーツ大会助成事業」による誘致を含む。

- メキシコ選手団事前合宿：9市町において、12競技・166人の選手団を受け入れた。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- メキシコ選手団の事前合宿受入や国際大会の開催については、目標を上回る実績を達しており、合宿地や大会開催地を中心として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成に、一定の効果が見られるものの、その効果が県域全体に波及するには至っていない。

令和元年度の実施方針

- メキシコ選手団との交流が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツ、教育、文化、経済等の多様な分野での県域全体の活性化に繋がるよう、各市町や関係団体と連携した取組を進める。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：企画費 目：企画総務費
担当課	スポーツ推進課
事業名	FISE ワールドシリーズ広島 2018 開催支援事業 (単県) 【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ④ 東京オリンピック・パラリンピックを活用した本県の魅力向上・発信

目的

アーバンスポーツ（※）世界大会の広島での開催を支援することにより、本県におけるスポーツ振興、地元経済の活性化及びスポーツと平和の祭典である東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運醸成を図るとともに、若い世代を中心とした世界の人々が広島を訪れ歴史や文化に触れることで、国際平和への願いを共有する機会を創出する。

※アーバンスポーツ

都市の遊びの中から生まれた若者に人気のあるスポーツで、音楽やファッション性を伴い、都市的なイメージを持つ一連の競技群を指す（スケートボードやスポーツクライミングなど、東京大会で追加競技となったスポーツを指す言葉として、国際オリンピック委員会をはじめとした国際スポーツ競技団体及びメディアで使用）。

事業説明

対象者

国内外のアーバンスポーツの競技者、県民

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
大会開催支援	FISE ワールドシリーズ広島 2018 を開催する（一社）日本アーバンスポーツ支援協議会への負担金拠出 【開催時期】平成30年4月6日～8日 【開催場所】旧広島市民球場跡地	50,000	50,000	50,000

成果目標

- 国際大会及び国際大会の事前合宿の誘致による地域の活性化とスポーツの振興
 - ・ のべ5件以上（令和2年度まで）

平成30年度実績

指標名	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
国際大会・国際大会事前合宿誘致数※	のべ5件	のべ8件

※「国際スポーツ大会助成事業」による誘致を含む。

- 「FISE ワールドシリーズ広島 2018」はのべ8万6千人が来場した（主催団体発表）。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- FISEが広島で継続的に開催されるよう、関係団体との協議を進める必要がある。

令和元年度の取組方向

- 平成31年4月に開催された「FISE ワールドシリーズ広島2019」の成果を検証した上で、来年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の直前大会として、一層、注目が期待される次回大会の開催に向けて、関係団体との協議を進めるとともに、国内アーバンスポーツの発展に向けた拠点として、選手の育成・強化、競技の裾野の拡大を担うアカデミーの誘致に取り組む。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：企画費 目：企画総務費
担当課	スポーツ推進課
事業名	スポーツ振興基礎調査費（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。
	④ 東京オリンピック・パラリンピックを活用した本県の魅力向上・発信

目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた事前合宿やアーバンスポーツの世界大会などを契機とし、本県におけるスポーツを核とした地域づくりに向けて、事前調査等を実施し、効果的な施策を検討する。

事業説明

対象者

県民，市町

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
スポーツ振興 基礎調査	○スポーツを活用した地域活性化の事例調査等 ・成功事例等の全国調査 ・成功要因等の分析 ・本県の特徴や状況を踏まえた効果的な施策の検討	5,000	5,000	4,514

成果目標

- スポーツを核とした地域づくりに向けた施策の立案

平成30年度実績

- スポーツを核とした地域づくりに向け、効果的な取組を推進するため、全国における事例の調査や有識者への意見聴取等を行った。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 事前調査等により得られた結果を踏まえ、効果的に取組を推進していく必要がある。

令和元年度の取組方向

- スポーツを核とした地域づくりに向け、全国における事例やこれまでの地域の取組状況を踏まえ、本県におけるスポーツを活用した地域活性化を推進していく。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：教育費 項：保健体育費 目：体育振興費	分野 豊かな地域づくり 領域 魅力ある地域環境 69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ④ 東京オリンピック・パラリンピックを活用した本県の魅力向上・発信
担当課	スポーツ推進課	
事業名	国際スポーツ大会助成事業（単県）【新規】	

目的

国際レベルのスポーツ大会を広島で開催することにより、広島を世界に向けてPRするとともに、県民が国内外の有力選手のプレーを間近で観戦することを通じて、県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツの振興及び競技力向上を推進する。

事業説明

対象者

大会主催者

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
2018NHK杯国際フィギュアスケート競技大会	○ 大会開催経費の一部を支援	10,000	10,000	10,000
ジャパンウイメンズオープンテニス 2018	○ 大会開催経費の一部を支援	2,500	2,500	2,500
合 計		12,500	12,500	12,500

成果目標

- 県民のスポーツに対する意識高揚や本県スポーツの振興、競技力向上への貢献

平成30年度実績

- 本県スポーツの振興・普及に繋げるため、国際レベルのスポーツ大会を開催し、世界トップレベルの競技を観戦する機会を提供した。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 国際レベルのスポーツ大会の継続的開催に向けて、引き続き、取組を推進する。

令和元年度の取組方向

- 県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツの振興及び競技力向上を推進するため、引き続き、国際レベルのスポーツ大会の開催を通じ、世界トップレベルの競技を観戦する機会を提供していく。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費	<table border="1"> <tr> <td>分野</td> <td>豊かな地域づくり</td> </tr> <tr> <td>領域</td> <td>魅力ある地域環境</td> </tr> <tr> <td>施策</td> <td>70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出</td> </tr> </table>	分野	豊かな地域づくり	領域	魅力ある地域環境	施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
	分野		豊かな地域づくり					
	領域		魅力ある地域環境					
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出							
款：土木費 項：道路橋梁費 目：道路新設改良費								
款：土木費 項：港湾費 目：港湾建設費								
担当課	都市圏魅力づくり推進課							
事業名	広島西飛行場跡地活用推進事業(単県)【一部新規】							

目的

広島都市圏における高次都市機能集積強化により中枢拠点性の向上を図る。

事業説明

対象者

広島市，民間事業者

事業内容

- 広島市と共同で次の事業等に取り組む。
 - ・ 広島西飛行場跡地利用計画に基づき実施した事業予定者募集において，決定した民間事業者（平成30年3月決定予定）との調整
 - ・ 跡地活用に必要な交通アクセスの改善に向けた道路整備に係る設計，用地補償，工事等

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
民間活力の導入に向けた事業者との調整	5,665	4,865	4,619
(広島市負担分を含む)			
基幹道路・南伸道路の整備	224,450	139,349	139,349 (繰越 93,950)
(県負担分)			
陸揚げスロープ等の整備	300,000	0	0
(広島市負担分を含む)			
多目的スポーツ広場の整備【新規】	26,000	0	0
(県負担分)			
合 計	556,115	144,075	144,075 (繰越 93,950)

成果目標

- 広島西飛行場跡地の有効活用
(広島市の拠点都市としての発展に寄与し，また，その効果が広域的に波及するような跡地の利活用)

平成30年度実績

- 「新たな産業（雇用）ゾーン」の土地鑑定評価をもとに事業者と土地売買契約を締結した。
- 広島西飛行場跡地の円滑な交通処理の観点から、基幹道路の整備（県道南観音観音線の拡幅整備及びクランクの解消）に必要な詳細設計、物件調査及び用地補償を行った。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 大規模展示場の実現可能性検討に伴い、広島西飛行場跡地活用に係る事業（新たな産業（にぎわい）ゾーン、スポーツ・レクリエーションゾーン、南伸道路、陸揚げスロープ）については一時休止することとした。

令和元年度の実行方向

- 事業者が複合産業拠点の開発に着手した「新たな産業（雇用）ゾーン」については、広島西飛行場跡地活用計画の目的が達成されるよう、事業提案書に基づいた開発が適切に実施されることを広島市とともに確認していく。
- 跡地活用に必要な交通アクセスの改善に向けた基幹道路の整備に取り組む。
- 観音地区における大規模展示場実現可能性の検討結果を踏まえ、一時休止している事業（新たな産業（にぎわい）ゾーン、スポーツ・レクリエーションゾーン、南伸道路、陸揚げスロープ）の今後の方向性を示す。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	都市圏魅力創造事業（単県）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

広島都市圏及び備後圏域において、内外の多様な人材を惹きつける魅力と活力ある地域環境の創出に向け、各圏域の中心である広島市及び福山市と連携した取組を推進する。

事業説明

対象者

広島市，福山市，県民等

事業内容

- 広島市都心部（紙屋町・八丁堀地区及び広島駅周辺地区）の中核拠点性の向上を目指して、広島市と連携して取り組む。
- 備後圏域の活性化につながる福山駅前の魅力の向上を目指して、福山市と連携して取り組む。

（単位：千円）

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
魅力的な 都市環境 形成事業	≪広島市≫ ○ 広島駅周辺地区のまちづくりの推進 ・地区の事業者等によるエリアマネジメント活動を支援 ○ 紙屋町・八丁堀地区のまちづくりの推進【一部新規】 ・地域主体によるエリアマネジメント活動や体制づくりを支援 ・民間活力の活用に向けた取組の検討 ○ 公益財団法人広島観光コンベンションビューロー等，関係者と連携した大規模な国際会議等の誘致（非予算）	4,207	4,207	3,034
	≪福山市≫ ○ 福山駅前の再生に向けた機運醸成・人材育成【新規】 ・エリアマネジメントの活性化に向けて、地権者や事業者等を対象としたまちづくりワークショップの開催等を支援	3,499	3,499	3,499
合 計		7,706	7,706	6,533

成果目標

- 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
 - ・ 広島市と連携した取組件数 平成30年度：7件以上（平成27年度以降累計）
 - ・ 福山市と連携した取組件数 平成30年度：1件以上

平成30年度実績

指標名	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
広島市と連携した取組件数	7件	7件
福山市と連携した取組件数	1件	1件

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 広島市都心部については、
 - ・平和記念公園には世界中から多くの人が集まっているにも関わらず、紙屋町・八丁堀地区への人の流れや滞在時間が少ないこと、
 - ・紙屋町・八丁堀地区においては、更新時期を迎える建築物が多く、その更新はあまり行われていないことなどの課題があり、広島市を中心とする広島都市圏の中核拠点性の向上を図るため、広島市と連携して、民間開発を誘導する支援策の充実により、民間活力を活用した都心空間のリニューアルを進めるなど、魅力ある都心づくりに向けた取組を推進する必要がある。
- 福山市の福山駅前地区については、備後圏域をはじめ、県全体の持続的な発展を担うことが期待されるエリアであるが、郊外への大規模商業施設の立地等により、福山駅前に訪れる人が少なくなっていることなどの課題があり、「福山駅前再生ビジョン」に基づき、福山駅前が、新たな取り組みの拠点となり、新たな魅力や賑わいを生み出すエリアになるよう魅力的な都市空間の創出に取り組む。

令和元年度の取組方向

- 「ひろしま都心活性化プラン」で描く都心の目指す姿の実現に向け、広島市とともに、県民・市民、地元企業など様々な主体と連携し、民間の投資を呼び込むための仕組みづくりやエリアマネジメント組織の設立支援など、都心の活性化を図る取組を進めていく。
- また、「福山駅前再生ビジョン」に基づき、福山駅前の再生に向けた機運醸成や人材育成など福山市と連携して取組を推進する。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	都市計画課
事業名	魅力ある「まちなみづくり」支援事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県における集客・交流の促進など地域の賑わい創出に向けて、魅力ある景観等、デザイン性のある都市空間の形成を図るため、市町が行う魅力あるまちなみづくりを支援する。

事業説明

対象者

魅力あるまちなみづくりに取り組む市町

事業内容

モデル地区に選定し、市町が行う魅力あるまちなみづくりを、重点的に支援することにより、早期に魅力あるまちづくりを進めるとともに、モデル地区以外の地域への普及を促進する。

(単位：千円)

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
モデル地区 の支援	選定したモデル地区※について、市町単独では実施が困難なまちづくりの指針となるデザインコンセプトの策定などを重点支援することで、市町による魅力あるまちなみづくりを促進する。 ※宮島口地区(廿日市市)H26 選定 街道東城路周辺地区(庄原市)H26 選定 忠海地区(竹原市)H27 選定 本町西国街道地区(三原市)H29 選定 ① ワークショップの運営支援, アドバイザー派遣 ② デザインコンペ等におけるデザイン審査会の設立・運営	6,789	4,816	4,558
他地域への 普及促進	モデル地区の取組状況などを、県内の市町と共有することにより、モデル地区以外への普及を促進する。 ① 県市町勉強会を通じた情報提供【非予算】 ② 県HPによる情報発信【非予算】	—	—	—
合 計		6,789	4,816	4,558

成果目標

○ デザインコンセプト策定地区数

0 地区（平成25年度）→ 4 地区（令和元年度）

平成30年度実績

指標名	基準値 (平成25年度)	目標値 (令和元年度)	実績値 (平成30年度)
デザインコンセプト の策定地区数	0地区	4地区 (平成25～令和元年度累計)	3地区 (平成25～30年度累計)

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 宮島口地区（廿日市市）、街道東城路周辺地区（庄原市）及び忠海地区（竹原市）では、策定したデザインコンセプトの実現に向けた取組に対して支援を行った。
- その結果、策定したコンセプトに基づき、宮島口地区では地元関係者が主体となって「宮島口地区景観ガイドライン」が作成されるとともに、忠海地区では地区内への観光客等の回遊性の向上に向けた社会実験が行われた。また、街道東城路周辺地区ではポケットパークの整備や道路の美装化等のハード整備が進められた。
- 平成29年度に選定した本町西国街道地区（三原市）では、デザインコンセプト策定に向けたワークショップについて、アドバイザーの選定、参加メンバーの確定、説明会を実施し、計3回ワークショップを開催した。なお、デザインコンセプトの策定に当たっては、ワークショップ参加者等の意向を踏まえ、開催を予定していたデザインコンペについては行わず、今後開催するワークショップの中で議論を深めることとした。

令和元年度の実行方向

- 本町西国街道地区（三原市）については、デザインコンセプト策定に向けて引き続き、ワークショップ開催等に取り組むとともに、先行する3地区については、策定したデザインコンセプトの実現に向けて引き続き、支援していく。
- モデル地区以外の県内のその他の地域については、モデル地区におけるワークショップ等の取組や、他県も含む先進事例について広く情報提供し、普及促進に向けて取り組むことで機運の醸成を図っていく。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	営繕課
事業名	魅力ある建築物創造事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県のブランドイメージの向上を図るため、魅力ある公共建築物の創造・発信やクリエイティブな人材の育成などを積極的に推進する。

事業説明

対象者

建築関係者（建築家、学生等），県民

事業内容

（単位：千円）

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
魅力ある 公共建 築物 の 創 造 ・ 発 信	① 島型建築プロポーザル方式※1の実施 ②広島型建築プロポーザル方式の市町への普及及び技術支援 ③トークイベント、完成見学会等による情報発信	3,871	2,939	2,114
民間建 築物 への 波 及	①県内の魅力ある建築物の発信イベント「ひろしまたてものがたり」の展開 たてものがたりフェスタ、たてものがたりサミット ②クリエイティブな人材育成 建築学生チャレンジコンペ	497	497	319
合 計		4,368	3,436	2,433

※1 広島型建築プロポーザル方式では、最も適した設計者を選定するため、次の4つの特色を盛り込んでいる。

- 1 参加資格のオープン化
- 2 建築関係団体との協定に基づく審査員選定
- 3 技術提案を重視した審査
- 4 公開ヒアリングなど審査過程の透明化

成果目標

- 広島型建築プロポーザル方式による発注件数
 - ・ 県100%， 市町4件以上（平成30年度）
- 県内の建築物が有名建築雑誌（※2）に掲載される件数
 - ・ 5件/年間（平成30年度）
- 県内の公共建築物の公共建築賞（※3）受賞件数
 - ・ 平成26年度から平成35年度までの10年間で8件以上

※2 新建築，日経アーキテクチュア

※3 地域への貢献が著しく，文化性が高いなどの優れた公共建築を表彰する。

平成30年度実績

指 標 名	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
広島型建築プロポーザル方式による発注件数	① 県100% ② 市町4件以上	① 該当なし ② 市町5件
県内の建築物が有名建築雑誌に掲載される件数	年間5件以上	年間14件
県内の公共建築物の公共建築賞受賞件数	8件以上 (H26～R5年度累計)	7件 (H26～30年度累計)

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 広島型建築プロポーザル方式について、県発注案件は、対象となる物件が無い状況であったため、要件を弾力的に運用するなど、県発注案件の創出に向けた対応が必要である。
一方で、同方式による完成建物の見学会を通じた魅力ある建築物の情報発信や建築技術者がいない市町等へのプロポーザル実施に向けたプロセスからの技術支援・審査委員派遣など関係機関と連携して実施している。
- 継続した取組により、プロポーザルを実施して完成した公共建築等が高く評価されるとともに、優れた設計者に設計を依頼し、魅力ある建築物を創造していくという民間建築物所有者等の意識の高まりが、有名建築雑誌に取り上げられる件数の増加や公共建築賞の受賞につながっている。
- 県民の建築に対する意識醸成のため、「県内の魅力ある建築物の発掘・発信」を更に民間の自主的な取組として活性化させ、継続して自立的に実施できる体制強化を図っていく必要がある。
- なお、豪雨災害の影響により、トークイベントやたてもものがたりサミットの規模を縮小して実施したため、予定していた予算の執行に影響を生じた。

令和元年度の取組方向

- 広島型建築プロポーザル、建築学生チャレンジコンペについては、県内へ人を呼び込むため、審査委員に著名な建築家を起用することや全国の建築学生を対象とすることなどによって、多くの建築関係者の関心を惹きつけることができおり、今後も継続して取り組んでいく。
特に、建築学生チャレンジコンペについては、「2018年日本建築学会教育賞」の受賞を契機に、更に、本県のブランドイメージと知名度の向上を目指し、関連イベントを実施するなど、周知活動に取り組んでいく。
- 「魅力ある建築物を創造する」という意識を民間へも広めていくため、著名な建築家が携わった事例を重点的に情報発信していく。
- 「県内の魅力ある建築物の発掘・発信」を民間の自主的な取組とするために、平成30年度に設立した「ひろしまたてもものがたりフェスタ実行委員会」の活性化を図り、更なる拡充、発展を目指し「ひろしまたてもものがたりフェスタ」の開催に取り組んでいく。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：観光費 目：観光費
担当課	観光課
事業名	海の道プロジェクト推進事業（単県） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	瀬戸内
73	国内外へのプロモーションや瀬戸内の魅力を体感する環境整備、観光関連サービス、地域産品などのプロダクトの開発誘導の充実に取り組みます。
①	観光ブランド「瀬戸内」の実現

目的

瀬戸内エリアが一体となって「瀬戸内ブランド」を確立することで、交流人口の拡大と地域経済の活性化を推進し、「瀬戸内 海の道構想」の実現を図る。

事業説明

対象者

瀬戸内地域の住民及び国内外の人々

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
瀬戸内ブランドの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○ (一社)せとうち観光推進機構(せとうちDMO)の円滑な運営 ○ 広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」の形成促進 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用したマーケティング及びプロモーション ・観光プロダクトの開発と販売促進 	41,496	41,496	40,200
観光資産の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2018」開催経費 	139,002	127,529	102,486
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「しまなみ海道」等 県内サイクリングコースの振興とプロモーション <ul style="list-style-type: none"> ・中四国各県と連携した広域サイクリングコースの振興【新規】 ・県内サイクリングコースの国内外プロモーション 	10,512	9,039	7,814
合計		191,010	178,064	150,500

成果目標

- 中長期の目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合（DMO調査） 50%
(令和2年)
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数 600万人泊（令和2年）
- 平成30年の目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合（DMO調査）：38%
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数：430万人泊

平成30年度実績

指標名	基準値 (平成25年)	目標値 (平成30年)	実績値 (平成30年)
首都圏等から瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合	27.9%	38%	26.7%
瀬戸内7県の外国人延宿泊者数	120万人泊	430万人泊	398万人泊

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 国内におけるメディア掲載件数が増加し、首都圏・関西圏における瀬戸内への来訪意向度は前年（25.7%）より増加しているが、「せとうち」をキーワードとした国内向けの取組は、サイクリング振興や復興プロモーション（観光復興推進事業）が中心となっていることから目標の38%には届かなかった。
- 海外においては、瀬戸内7県の目標の外国人宿泊者数について、米、英、独、仏に設置した現地エージェンシー及びせとうちDMOの情報発信基盤webサイト（「SETOUCHI REFLECTION TRIP」）を活用したデジタルマーケティング・プロモーション等の実施により、ニューヨークタイムズの「2019年行くべきデスティネーション」に瀬戸内エリアが日本で唯一ランクインするなど、海外の有力メディアに瀬戸内が掲載されたこともあり、平成30年7月豪雨等の影響があったにもかかわらず前年から48万人泊増加したものの、430万人泊には届かなかった。
- その要因としては、魅力を体感できる観光関連サービス（クルーズ、サイクリング、食、アート等）が十分定着しておらず、そうしたサービスを提供できる観光関連事業者が育っていないことや、瀬戸内の資産・魅力について十分に発信できていないことなどが考えられる。
- 併せて、せとうちDMOの財源には、瀬戸内7県からの負担金に加え、国の補助制度を活用しているが、国の補助制度は時限的（令和3年度以降未定）であるため、安定した財源を確保した上で事業を展開する必要がある。

令和元年度の取組方向

- 首都圏・関西圏における瀬戸内への来訪意向度の向上に向けて、2020年に開催される「せとうち広島デスティネーションキャンペーン」や、「ひろしまトリエンナーレ 2020inBingo」のプレイイベント（観光地ひろしま推進事業）等に取り組み、瀬戸内地域への誘客を図る。
- 外国人延宿泊者数をさらに増加させるため、引き続き、せとうちDMOと連携し、瀬戸内を体感できる観光関連サービスの充実や、プロダクト開発の促進、プロモーションの強化を図る。
- せとうちDMOの財源を安定的・継続的に確保するため、その財源スキームの見直しについて引き続き検討する。
- 東京オリンピック・パラリンピックに合わせた「サイクリングしまなみ2020」の開催に向けた準備を行うとともに、しまなみ海道を核とした広域サイクリングルートを受入環境整備、プロモーション等について関係機関と連携して取り組む。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	ひろしま里山・人材力加速化事業(単県) 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	76 自主的・主体的な地域づくりを支える多様な人材の育成・ネットワークづくりに取り組みます。 ① 地域における「つながり力」の強化と活躍人材の育成・ネットワークづくり

目的

これまで発掘・育成してきた中山間地域の地域づくりリーダーの活動が、将来にわたって主体的かつ継続的に展開されるよう、サポート体制の整備等を行うとともに、新たな人材の育成・確保に取り組み、中山間地域における県民の地域づくり活動の活発化や維持・継続を図る。

事業説明

対象者

県民等

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
チーム500 ブラッシュ アップ	<ul style="list-style-type: none"> ○クラウドファンディングを活用した課題解決への支援【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディング実施にかかる経費の支援 ○産学金官による「さとやま未来円卓会議」の設置【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ・商工会，大学，金融機関，市町等と一体となった支援体制の整備 ○相談窓口「サポートデスク」の設置【新規】 ○情報発信，情報交換会等によるチーム500コミュニティの活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・登録者の活動事例発信，交流会開催によるノウハウの共有，ネットワーク構築等 	13,706	13,456	13,067
新たな人材の 育成・気運 醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○「ひろしま《ひと・夢》未来塾」の開講 <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの担い手確保やスキルアップのための研修を実施 ○「ひろしま里山グッドアワード」の実施【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ・里山にあるものを生かした好事例の表彰，ロールモデルの発掘と見える化 ○「ひろしま里山ココロザシ・カフェ」の実施【新規】 <ul style="list-style-type: none"> ・ワールド・カフェの実施 ○中国5県連携による里山グッドライフ実践者交流会の開催【新規】 	18,004	16,616	15,940
合 計		31,710	30,072	29,007

成果目標

- 地域づくり活動をリードする人材の育成 平成30年度目標：290人（累計）
令和6年度目標：500人（累計）

平成30年度実績

- 目標を達成した。

指標名	基準値 (平成29年度)	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
地域づくり活動を リードする人材の育成	260人	290人	294人

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「ひろしま《ひと・夢》未来塾」や首都圏から地域貢献の意欲の高い人材を呼び込む「ひろしま里山ウェーブ拡大プロジェクト」などの事業で発掘・養成した人材にひろしま里山・チーム500への登録を促し、地域づくり活動をリードする人材の拡大と交流を図った。

令和元年度の取組方向

- 中山間地域の課題解決に取り組む人材が着実に増えてきており、引き続き、「ひろしま《ひと・夢》未来塾」や「ひろしま里山ココロザシ・カフェ」等の事業を通じて地域の課題解決に意欲や関心を持つ層の拡大を図るとともに、地域づくりに主体的に関わろうとする人の発掘や、中山間地域での起業を目指す若者を養成するなど、将来を担うリーダーの育成や交流を図る。
- 中山間地域で地域づくりに取り組む人や活動をつなぐプラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」を基盤として、その活動を継続・発展させるため、クラウドファンディングの活用支援による新たなチャレンジ機会の創出や、関係機関との連携による「さとやま未来円卓会議」やサポートデスクの運営等の側面的な支援を行う。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：農林水産業費 項：農地費 目：農地総務費	分野 豊かな地域づくり 領域 中山間地域 77 多様な人たちが、地域の資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジできる環境整備に取り組みます。 ① 持続的な農業生産活動の実現
担当課	農業基盤課	
事業名	農業・農村多面的機能支払事業（一部国庫）	

目的

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動や、道水路や農村環境の適切な保全活動を支援することにより、持続的な農業生産活動を通じた農地の公益的機能の維持・発揮を図る。

事業説明

対象者

広島県農地・水・農村環境保全協議会，市町，県

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	補助率	実施主体	当初予算額	最終予算額	予算執行額
農地維持 支払	○多面的機能を支える共同活動を行う集落等に支援 ※農地法面の草刈，水路の泥上げ，体制の拡充・強化等に要する経費 【交付単価】 田：3,000円/10a 畑：2,000円/10a 草地：250円/10a	国 1/2 県 1/4 市町 1/4	市町	447,141	450,896	449,305
資源向上 支払	○地域資源の質的向上を図る共同活動に支援 ※水路，農道，ため池の軽微な補修，植栽による景観形成等 【交付単価】 田：2,400円/10a 畑：1,440円/10a 草地：240円/10a 協定期間5年間経過後は，75%単価			276,190	223,901	222,396
長寿命化	○農業用施設の長寿命化を図るための活動に支援 ※老朽化部分の補修や機能維持のための更新等 【交付単価】 田：4,400円/10a 畑：2,000円/10a 草地：400円/10a			204,888	236,940	236,214
合 計				928,219	911,737	907,915

成果目標

公益的機能が維持される面積：43,600ha（～令和2年度）

平成30年度取組面積：19,146ha

平成30年度実績

指標名	基準値 (平成25年度)	目標値 (令和2年度)	実績値 (平成30年度)
多面的機能支払制度 の取組面積	9,104ha	43,600ha	19,174ha

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 取組面積の拡大に向け、市町と連携しながら地域に対して制度活用に向けた働きかけを行った結果、平成30年度取組面積は目標（19,146ha）を上回った。
- 既存の活動組織において、制度活用に伴う事務作業を担う人材不足を理由に、将来的には取組を継続することが困難、もしくは規模を縮小せざるを得ないと考えている組織が存在する。

令和元年度の取組方向

- 取組面積の拡大に向け、地域外の担い手と連携し、持続的な農業経営と一体的に農地を維持・保全管理する体制づくりを推進する。
- 制度を活用する際の事務作業の負担を軽減するため、研修会の場を通じて、活動組織の広域化の取組を紹介するなど、近隣地域との広域活動組織の設立を推進する。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	チャレンジ・里山ワーク拡大事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	77 多様な人たちが、地域の資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジできる環境整備に取り組みます。
	② 地域<しごと創生>に向けたチャレンジ支援

目的

廃校舎や古民家等中山間地域の既存施設を活かして企業のサテライトオフィスを誘致しようとする市町を支援し、中山間地域における新しいワークスタイルの定着と企業誘致を促進する。

事業説明

対象者

中山間地域を有する市町、首都圏等のサテライトオフィスを検討する企業

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
里山ステイ&ワーク実証事業	45,000	45,000	44,570
マッチング支援	4,500	3,500	2,805
広報展開	10,000	10,000	9,680
合 計	59,500	58,500	57,055

成果目標

○中山間地域における地域資源を活用した「新しい働き方」実践事例の発現

- ・トライアルオフィスの利用企業：45社(H30)

平成30年度実績

指 標 名	基準値 (平成29年度)	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
トライアルオフィスの利用企業	—	45社	12社

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

○ 平成30年7月豪雨により、トライアルオフィスの整備やモニターツアーの実施が延期となり、オフィス利用への誘導を行う期間が短くなったため、利用企業が少なくなった。

令和元年度の取組方向

- 地方進出意向の高い企業と対象市町のマッチング機会を増やし、企業のニーズにきめ細かく対応することにより、現地視察企業数を確保する。
- 現地視察参加企業に短期間のトライアルオフィス利用体験を促し、サテライトオフィス開設に向けた検討を働きかけていくとともに、専門家等を活用して誘致活動に取り組む市町を支援する。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費	分野	豊かな地域づくり
担当課	森林保全課・林業課	領域	中山間地域
事業名	ひろしまの森づくり事業（単県）	78	安心を支える生活環境づくりについて、市町等と連携して取り組みます。
		⑤	森林の公益的機能の維持

目的

県民共有の財産である森林を県民全体で守り育てる事業を推進することにより、県民全体が享受している県土の保全や水源かん養などの公益的機能の持続的な発揮を図る。

事業説明

対象者

市町、森林所有者、住民団体、森林ボランティア団体、民間事業者等

事業内容

区分2～4については、【ひろしまの森づくり基金充当】（単位：千円）

区分	内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
1 基金 積立	○「ひろしまの森づくり基金」への積立	856,010	863,604	863,604
2 県補 助金 事業	○人工林対策（間伐，県産材利用促進），森林病害虫被害対策 ・放置された人工林のうち，県民生活への影響が大きいと想定される森林の間伐・作業道整備等 ・松くい虫等の森林病害虫被害に対する防除対策 ・木造建築物における県産材の利用拡大	475,560	409,890	394,974
3 交付 金事 業	○里山林対策等 市町の主体性により，次のメニューについて県からの配分の範囲内で実施 ・里山林や都市近郊林等について，景観保全，防災・減災，鳥獣害対策等を目的とした森林整備 ・森林の機能や林業について学ぶ森林・林業体験活動や木育活動 ・森林を活用しながら自ら森林整備を行う小規模林業経営者，地域住民，森林保全活動団体等の育成等	310,000	310,000	309,431
	○特認事業枠 市町等が特に提案して実施する場合の特別枠 ・住民団体等による自主的・継続的な森林保全活動 ・土砂災害の恐れがある区域の森林整備や歩道整備 ・市町域を越えた広域的な森林・林業体験活動等	110,000	80,411	80,411
4 県実 施事 業	○意識啓発 県民から特別に税を徴収していることや税の趣旨，取組内容や成果など，ひろしまの森づくり事業に対する県民の理解を得るための広報	23,779	23,779	22,828
合 計		1,775,349	1,687,684	1,671,248

成果目標

手入れ不足の人工林の間伐面積（平成 23 年度～累計）

：平成 28 年度 6,475ha → 平成 30 年度 8,100ha

地域資源保全活用事業の実施箇所数(平成 24 年度～累計)

：平成 28 年度 27 箇所 → 平成 30 年度 40 箇所

森林ボランティア活動の延べ人数 : 平成 28 年度 72,145 人 → 平成 30 年度 76,000 人

県産材（スギ・ヒノキ）生産量 : 平成 28 年度 32.0 万 m³/年 → 平成 30 年度 35.8 万 m³/年

木材安定供給協定による取引量 : 平成 28 年度 10.1 万 m³/年 → 平成 30 年度 14.0 万 m³/年

平成 30 年度実績

指標名	基準値 (平成 22 年度)	目標値 (平成 30 年度)	実績値 (平成 30 年度)
手入れ不足の人工林の間伐面積（累計）	990ha/年	8,100ha (H23～30 年度の累計)	7,930ha (H23～30 年度の累計)
地域資源保全活用事業の実施箇所（累計）	—	40 箇所 (H24～30 年度の累計)	36 箇所 (H24～30 年度の累計)
森林ボランティア活動の延べ人数	57,000 人	76,000 人	75,911 人
県産材（スギ・ヒノキ）素材生産量	14.8 万 m ³	35.8 万 m ³	32.9 万 m ³ /年
木材安定供給協定による取引量	—	14.0 万 m ³	12.5 万 m ³ /年

平成 30 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 手入れ不足の人工林の間伐面積については、第 3 期計画期間に当たる平成 29 年度から、県民生活に影響がある森林に支援対象を絞り込み、集中的な間伐に取り組んでいるが、次の要因により、目標（H23～30 年度の累計 8,100h）が達成できなかった。
 - ・森林所有者の同意取得および境界の明確化に時間を要していること
 - ・昨年 7 月の豪雨災害が影響し、実施計画箇所に着手できなかったこと
 なお、昨年 7 月の豪雨災害に対応するため、事業内容を拡充し、被災森林において、倒木等の伐倒処理及び撤去作業等を行った。
- 地域資源保全活用事業については、地域で森林保全活動を行う活動組織の担い手確保が進まなかったため、実施箇所数が累計目標の 40 箇所に対して、実績は 36 箇所となった。
- 森林ボランティア活動の延べ人数については、ひろしまの森づくり事業の周知活動による効果もあり、目標は概ね達成した。一方で、各ボランティア団体が今後も自主的・継続的な活動を行うためには、安全管理技術の徹底が課題となっている。
- 県産材（スギ・ヒノキ）素材生産量については、高性能林業機械の導入や路網整備などの木材生産体制の整備を進めるとともに、住宅分野を中心とした県産材需要の拡大に取り組んだが、7 月豪雨災害による作業道等の被災により事業地が減少し、目標を下回った。
- 木材安定供給協定による取引量については、製材工場等への直送の取組を推進したが、7 月豪雨災害に伴う県産材素材生産量の減少により、目標を下回った。

令和元年度の取組方向

- 手入れ不足の人工林の間伐については、次の取組を進める。
 - ・森林計画図などの位置情報や土地所有者の情報を市町及び実施主体で共有することにより、森林所有者の同意取得及び境界の明確化を円滑に推進
 - ・豪雨災害の影響があった箇所については、森林作業道の改良や新設等が本事業で対応可能であることを市町担当者会議や関係機関会議で周知することで、事業地を迅速に復旧なお、昨年7月豪雨による被災森林に対しては、引き続き、倒木等の伐倒処理及び撤去作業等を行う。
- 地域で森林保全活動を行う担い手は定年後の世代が中心となっているため、森林・林業体験活動などの体験参加型の取組を推進することにより、幅広い世代の担い手の確保を進める。
- 各ボランティア団体の安全管理の技術及び知識を向上させるため、安全管理技術講習会の開催箇所及び開催回数を増加する。
- 県産材（スギ・ヒノキ）需要の更なる確保に向けて、新規事業者の参入を促すため、建築会社等への事業PRを強化する。
- 木材安定供給協定による取引量の増加に向けて、大規模工場等の年間及び月毎の需要を把握し、各林業事業体へ情報提供するなど、安定的な集出荷体制の構築に向けた取組を行う。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	平和推進プロジェクト・チーム
事業名	国際平和拠点ひろしま構想推進事業（一部国庫） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	平和貢献
施策	79 核兵器廃絶のメッセージを継続的に発信するとともに、核軍縮・不拡散プロセスの進展への取組を促進します。
	① 核兵器廃絶に向けたプロセスの進展
	80 復興・平和構築のための人材育成と研究集積を促進します。
	① 平和構築のための人材育成と研究集積
	81 持続可能な平和支援メカニズムを整備します。
① 持続可能な平和支援メカニズムの構築	

目的

世界中のリーダーや研究者、NGO など、幅広い人材や情報・知識、資金などの資源を広島に集め、結びつけ、つなぐことにより、核兵器廃絶や復興・平和構築などの分野の研究や活動が活発に展開される「国際平和拠点ひろしま」を実現することを通じて、平和で安定した国際社会の実現に貢献する。

事業説明

対象者

各国政府、県民、大学、NGO、財団、国連等の国際機関等

事業内容

(単位：千円)

		内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
核兵器 廃絶	ひろしまラウンドテーブル開催事業	北東アジアの核軍縮に焦点を当てた円卓会議の広島開催	23,762	19,279	16,386
	ひろしまレポート作成事業	各国の核軍縮・不拡散の取組状況を調査・研究し、取りまとめ			
復興・ 平和構築	平和構築人材育成強化事業	高校生を対象にした国際平和貢献人材育成プログラム「グローバル未来塾 in ひろしま」の実施 国際平和人材育成プログラムの充実(オンライン学習)【一部新規】	19,123	16,404	16,361
	ひろしま復興・平和構築研究事業	広島での復興プロセス研究を基にした教材の活用促進			
	ひろしま研究・教育機関連携強化事業	県内平和関連機関によるネットワークの連携強化に向けた情報交換、情報発信			

持続可能な平和支援メカニズム構築	拠点構想推進事業	国際平和拠点ひろしま構想推進委員会の開催等 NPT運用検討会議準備委員会への参加（シンポジウムの開催，提言の働き掛け）等	89,393	84,398	72,762
	共同研究推進事業	海外研究機関との共同研究【新規】			
	国際会議開催・誘致事業	国際平和のための世界経済人会議開催			
合 計			132,278	120,081	105,509

成果目標

- NPT運用検討会議（2020（R2）年開催）の最終文書への「ひろしまラウンドテーブル」提言内容の働き掛け
- 県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数 目標：5,500人（H28～30累計）
- 平和に関する人材，知識・情報，資金などを集積して，継続的な平和活動を可能とする仕組みの事業推進主体としてのセンター機能の方向性の具体化

平成30年度実績

- 「ひろしまラウンドテーブル」で取りまとめた「議長声明」を外務省に提案。その後，政府主催の「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」の場において政府が各委員に配付され議論に活用されるなど，政府が目指すNPT運用検討会議準備委員会への提案づくりに一定の貢献をした。

- 県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数

指 標 名	基準値 (平成29年度)	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成30年度)
県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数	4,864人	5,500人 (H28～30累計)	14,697人 (H28～30累計)

- 世界トップクラスの研究機関である英国王立国際問題研究所（チャタムハウス）との連携協定の締結や「国際平和のための世界経済人会議」開催による経済界，NGO，国際機関等との連携などを進めて，継続的な平和活動を可能とする仕組みづくりのためのセンター機能の方向性の具体化のための手法を整理した。

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- NPT運用検討会議第2回準備委員会に参加し，サイドイベントの開催や各国大使や研究機関・財団関係者との意見交換を通じて，核兵器廃絶に向けた広島を取組を発信することができたことなど，継続的な情報発信や直接的な働きかけを通じて，広島での平和取組の認知度が向上している。
- オンライン学習講座の開講のほか，海外からの研修生や県内大学の講義を通じて，平和を学ぶ人数は目標を上回った。
- 広島での国際平和の拠点性を高めるために必要なセンター機能の方向性を整理し，国際平和拠点ひろしま構想推進計画（2019-2021）において，今後の取組に具体的に位置づけた。

令和元年度の取組方向

- 今後とも、連携協定を締結した研究機関と核抑止に頼らない新たな安全保障理論の構築に向けた共同研究を行い、その成果をひろしまラウンドテーブルの提言に反映させることなどにより、NPT運用検討会議などで効果的な働きかけを継続的に行い、核軍縮に具体的に貢献していく。また、新たに国際NGOと連携し、国際平和の実現に貢献する人材の育成に取り組む。
- 被爆の実相と核軍縮、復興・平和構築について学ぶことのできるオンライン講座の拡充や英語化を進めることにより、幅広く世界の若者に学習機会を提供することで、平和の担い手の量的拡大を図る。また、既存の人材育成事業と連携して、効率的な事業運営を進める。
- 「国際平和のための世界経済人会議」の開催などを通じ、国際機関、研究機関、経済界、NGO等、様々な機関とのネットワークを具体的な取組へと充実させることにより、平和に関する人材、知識・情報、資金などを集積し、平和に関する拠点性の向上につなげる。その一環として、オンラインプラットフォームの機能を担う、ウェブサイトの構築を進める。

平成30年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	国際課
事業名	ひろしまジュニア国際フォーラム開催事業(単県)

分野	豊かな地域づくり
領域	平和貢献
施策	81 持続可能な平和支援メカニズムを整備します。 ① 持続可能な平和支援メカニズムの構築

目的

海外から高校生を招聘して、日本人高校生と国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信するとともに、国際的な相互理解を深め、次代の人材育成と国際平和拠点性向上に資する。

事業説明

対象者

日本人高校生、県内留学生及び一般県民、海外高校生等

事業内容

○ 海外及び県内高校生による国際会議を開催し、国内外に情報発信する。

(単位：千円)

内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
○ ひろしまジュニア国際フォーラムの開催			
1 開催時期 平成30年8月19日(日)～22日(水)			
2 実施場所 広島国際会議場ほか			
3 テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること (核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組)			
4 プログラム			
8月19日 オリエンテーション, 平和記念資料館見学, 慰霊碑参拝, 被爆証言聴講, チームビルディング	19,000	18,017	17,378
8月20日 県内留学事情紹介, 開会式・基調講演〔一般公開〕 グループディスカッション			
8月21日 グループディスカッション 報告会・広島宣言発表〔一般公開〕			
8月22日 県内視察			
合 計	19,000	18,017	17,378

成果目標

○ 広島の国際平和拠点性の向上

平成30年度実績

○ 参加者 高校生・留学生 計79名

・外国人高校生	32名
・日本人高校生	43名
・県内留学生	4名

(海外高校生の招へい国・地域)

友好提携先からの招へい	中国・四川省, アメリカ・ハワイ州, メキシコ・グアナフアト州	
海外県人会からの招へい	ペルー	
広島県内に留学生が多い国(地域)からの招へい	海外から	ベトナム, インドネシア, 韓国, タイ, バングラデシュ, 台湾, ミャンマー, マレーシア, ネパール, カンボジア, アフガニスタン, インド, フィリピン, モンゴル, ラオス, スリランカ
	国内から	アルゼンチン, オーストラリア, ボリビア, ボスニア・ヘルツェゴビナ, カナダ, チリ, デンマーク, フィンランド, フランス, イラン, マラウイ, スロバキア

- 基調講演等来場者 約 500 名

平成30年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 平和のメッセージの発信力の強化と参加者の国際的な相互理解の促進に向け、国内在住の外国人高校生の参加国・地域数の増加や、海外向けの情報発信の強化などに取り組む必要がある。

令和元年度の取組方向

- 外国人高校生の参加国・地域数のさらなる増加を図り、平和のメッセージの発信力を高める。
- インターネットの積極的な活用と、海外メディア向けのプレスリリースの利用などにより、情報発信を強化する。